

平成29年度「事業計画・収支予算」決まる

去る3月27日、臨時議員総会を開催しました。総会には小西会頭はじめ80人の議員が出席（委任状出席含む）されるとともに、今回初めて青年部と女性会から代表者出席の中、全8議案が可決されました。ここでは、「事業計画」と「収支予算」の概要をお知らせします。

みんなの夢を叶えよう！

わが国の経済は、回復基調にあるものの、地方においては依然として厳しい経済情勢が続いています。

こうした中であって、商工会議所は、広域観光振興や農商工連携、地域資源や強みを活かした成長産業を育成する一方、域外の需要・消費・投資を取り込み、地域で産んだキャッシュを地域で消費する好循環を創出していかなければなりません。

今、投資や消費が縮んでいるのは、日本経済の先行き不安が原因といわれていますが、5年後、10年後、あるいはその先に向けて、明るい夢のある「未来へのシナリオ」を描いてみると前向きになれるのではないのでしょうか。

私たちの夢を叶えるための処方箋が、国においては、強い経済を目指す「アベノミクス」であり、舞鶴にお

いては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。

商工会議所の役割は、「地域唯一の総合経済団体」として機能することにあります。そして、その役割を経済の側面だけで捉えることなく、地域の最も重要なステークホルダーの一人として自治体等と連携し、まちづくりをリードしていくことが求められています。

先を見通す、しっかりとした目を持ち、「オール舞鶴」の体制で、未来に繋がる活路を見出して、したたかに地域全体の振興と発展を図っていかなくてはなりません。

これらのことを念頭に、平成29年度の当商工会議所の運営にあたっては、役員・議員・会員が丸となり、社会全体からより多くの支持と信頼がいただける“商工会議所”を目指します。

基本方針

1. 企業力で、地方を元気に！

京都北部地域5市2町は、わが国の構造的な大きな課題である「人口減と高齢化」に加え、これらに起因する「地方の疲弊」という共通の課題を抱えています。

しかしながら、近年、「広域交通インフラ」が完成し、「京都舞鶴港」の機能強化が進む中、人流・物流の効率化や民間投資の誘発、観光交流などが促進され、定住人口減少を補うことができる「交流人口」拡大の可能性を大きく広げました。

また、国に認定された「海の京都観光圏」として年間1,000万人の観光客が訪れる「広域観光の拠点」であり、日本海側では、富山市に次いで製造品出荷額が年間6,400億円を超える「豊かな産業基盤」を有する日本海側の重要地域となりました。

今こそ、このビジネス環境を活かし、「ひと」を呼

び込み、「しごと」を増やし、「利益」を生み出す仕組みをつくり、まちに活力と潤いを与えなければなりません。

その一つとして、店主が講師となり「まちゼミ」を開催し、お店の特徴や店主のこだわり・人柄を知ってもらい、お客様との信頼関係を築くことで、商店街や個店のファンを増やす取り組みを行います。

また、寄港回数が増えるクルーズ船については、街中に乗船客を呼び込むことで「まちの賑わい」を創出します。更に、地域の資源を活用した商品開発や販路の拡大などに向け意欲ある商工業者の取り組みを応援します。

商工会議所は、地域を担う総合経済団体としての矜持を持ち、会員企業が日々の企業活動を通じ地域に貢献することで、「元気なまち」「夢あるまち」を目指します。